

目的

INSTRAWによれば、家事やボランティア、教育は、私達の生活にとって必要な労働であるが、賃金が支払われない労働（アンペイド・ワーク）であり、それに費やす時間量の男女差は、私的な生活領域での男女差を示していると捉えている。なかでも家事の分担率は、家庭・家族の中での男女平等の度合を測る指標として重要である。この家事の男女の分担率は、家族の形態や社会状況によって相違するが、国際比較においては、特に日本の男性の分担率の低さが際だっている。生活時間や他の統計数値と対比することによって、その要因を探ることを本報告の目的とする。

方法

U.N. *The World's Women 1995* や ILO *Year book of Labour Statistics* などをベースに入手可能な各国の数値を付加して、統計数値を比較検討する。

結果

1週間当りの平均家事時間量の男女の合計値のうち男の時間量の占める割合（男の家事分担率）が高い国はノルウェー（38%）、オーストラリア（36%）などであるが、日本は9%と、韓国（11%）と並んで、統計のある国の中では最も低くなっている。この家事分担率と、婚姻率、高等教育の就学率、女性の就業率、男女賃金格差、公的活動への女性の参加率などを対比し、検討を行った。その結果、男女賃金格差が男女の家事分担率の相違ともっとも関連していることが明かとなった。